

# くらしナビ

—— 社会 保 障 ——

## 多様化する働き方を後押し

社会的な課題の解決に尽力する非営利組織（NPO）を顕彰する「第9回エクセレントNPO大賞」（「エクセレントNPO」をめざそう市民会議主催、毎日新聞社共催）の大賞に、NPO法人「二枚目の名刺」（東京都）が選ばれた。組織や立場を超えて新しい社会を築こうとする個人・団体の支援や橋渡しを行い、多様化する働き方を後押しする取り組みが評価された。

### エクセレントNPO大賞 二枚目の名刺

活動は2009年、代表の広優樹さん(42)らが始めた。本業で「1枚目の名刺」を持つ人が集まり、それぞれのスキルを生かして社会貢献に取り組みアイデアを「2枚目の名刺」と名付けた。5人ほどのチームが既存のNPO団体などと協力し、プロジェクトを企画して達成する仕組みを作った。障害や病気を抱える人のサポートや過疎地域の振興、海外で貧困に苦しむ人の支援など、幅広い分野の活動を後押ししてきた。

広さんは大学卒業後、日銀に入行。英オックスフォード大への留学を経て、今は商社で働く。留学中に出会ったベトナムの起業家の問いかけが、活



NPO法人「二枚目の名刺」の活動風景。本業がある人がもう一つの肩書を持つことを「2枚目の名刺」に例えた一団NPO提供

### 組織や立場超えて

動のきっかけとなった。「私は起業してベトナムに雇用を作り出した。あなたはこのまま日本に帰って会社員をやるだけか。それでいいのか」。この経験から、会社組織だけでなく社会のために行動する「会社人から社会人へ」というイメージを描いた。

活動は平日の夜や土日が中心。コロナ下でイベントやミーティングのオンライン化が進み、全国各地や海外からも参加できるようになった。

プロジェクトには、いくつかの決まりごとがある。「新しいことに意味がある」「身の丈を超える」といった理念に加え、「1枚目（本業）を言い訳にしない」「3カ月で区切る」といったルールで本業とのバランスを取れるよう工夫する。当初は25〜35歳の若者が中心だったが、近年は45〜55歳の層が増えた。「『人生100年時代』といわれる今、リタイア後のキャリアを見据え、社会との接点をどう持つべきか考える人が増えている」と分析する。異なる立場や背景を持つ人たちが共に活動することで、新たな出会いや発見が生まれ、本業に生きるケースもあるという。

活動への参加はホームページ（<https://nimaine.or.jp/>）から。定期的な説明会を行っている。

【奥山はるか】

### エクセレントNPO受賞一覧

エクセレントNPO大賞は、市民性や課題解決力、組織力の観点で評価基準を設け、各部門賞の中から大賞を選出する。応募は76団体だった。

ノミネート団体は次の通り。◎は部門賞。<市民賞>◎二枚目の名刺▽海外に子ども用車椅子を送る会（東京）▽さわやか福祉の会・松戸くらしの助っ人（千葉）▽ハナラボ（東京）▽こども緊急サポートふくしま（福島）<課題解決力賞>ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO（東京）▽◎とりで（山口）▽にじいろクレヨン（宮城）▽エンパワリング プレストキャンサーE-BeC（東京）▽SALASUSU（東京）<組織力賞>◎全日本ピアノ指導者協会（東京）▽SET（岩手）▽よりそいネットワークぎふ（岐阜）▽グリーンウッド自然体験教育センター（長野）▽多言語センターFACIL（兵庫）<コロナ対応チャレンジ賞>こまちぶらす（神奈川）▽◎DAREDEMO HERO（兵庫）▽SALASUSU▽ケアブレンド（宮城）▽あびこ・シニア・ライフ・ネット（千葉）

協賛 住友商事▽野村ホールディングス▽日本生命保険相互会社▽SCSK▽IHI▽りそなホールディングス